

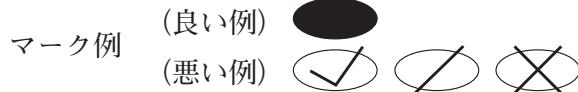
令和8年度（令和7年度実施）
高知県公立学校教員採用候補者選考審査
筆記審査（専門教養）

小学校 中学校 県立学校 養護教諭

受審番号		氏名	
------	--	----	--

【注意事項】

- 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
 - 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
 - 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。
- また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

※ 正しくマーク（正しい選択問題への解答及びマーク）していないと、正確に採点されませんので、注意してください。

受審番号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
0	0	0	0	0
2	1	1	1	1
3	2	2	2	2
4	3	3	3	3
5	4	4	4	4
	5	5	5	5

記入例

（受審番号 1 2 3 4 5 の場合）

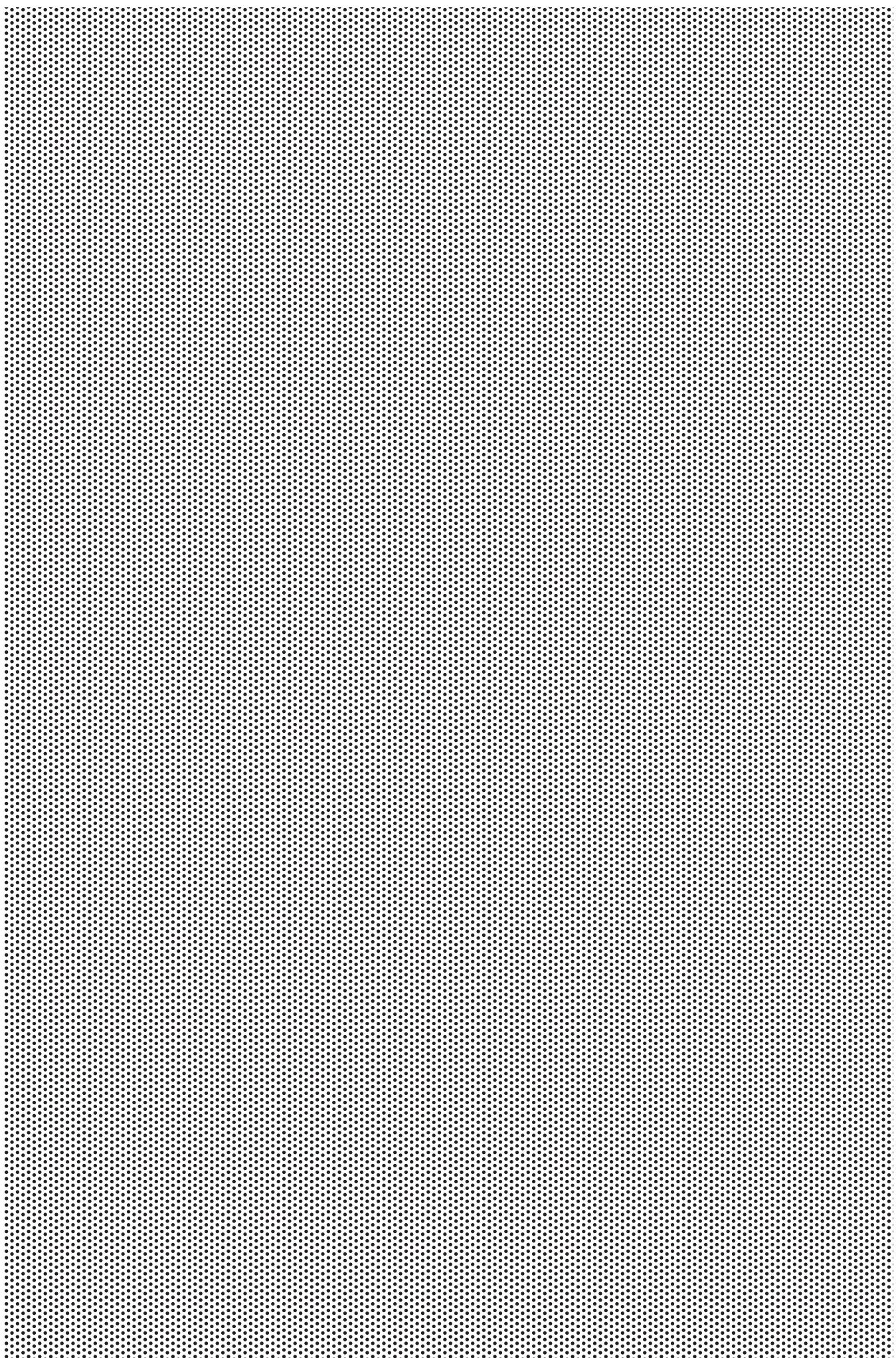
- 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 **ア** と表示のある問い合わせに対して b と解答する場合は、下の（例）のようにアの解答欄の **b** をマークしてください。

（例）

ア	a	●	c	d	e	○	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	±
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



第1問 次の1～4の問い合わせに答えなさい。

1 次の(1)～(3)の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）の条文の一部抜粋である。文中の()に該当する語句を、下のa～eから一つ選びなさい。 ア

第13条 (), 每学年定期に、児童生徒等（通信による教育を受ける学生を除く。）の健康診断を行わなければならない。

2 (), 必要があるときは、臨時に、児童生徒等の健康診断を行うものとする。

第14条 (), 前条の健康診断の結果に基づき、疾病の予防処置を行い、又は治療を指示し、並びに運動及び作業を軽減する等適切な措置をとらなければならない。

a	校長は
b	学校においては
c	学校の設置者は
d	文部科学大臣は
e	教育委員会は

(2) 次の文は、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）の条文の一部抜粋である。文中の(①)～(③)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 イ

第24条 地方公共団体は、その設置する小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部の児童又は生徒が、感染性又は学習に支障を生ずるおそれのある疾病で政令で定めるものにかかり、学校において治療の指示を受けたときは、当該児童又は生徒の保護者で次の各号のいずれかに該当するものに対して、その疾病的治療のための(①)に要する費用について必要な援助を行うものとする。

- 一 (②)（昭和25年法律第144号）第6条第2項に規定する(③)
- 二 (②)第6条第2項に規定する(③)に準ずる程度に困窮している者で政令で定めるもの

	①	②	③
a	支援	介護保険法	要支援者
b	介護	介護保険法	要保護者
c	介護	生活保護法	要支援者
d	医療	介護保険法	要介護者
e	医療	生活保護法	要保護者

(3) 次の文は、学校保健安全法施行令（昭和33年政令第174号）の条文の一部抜粋である。文中の（①）～（③）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ウ

第8条 法第24条の政令で定める疾病は、次に掲げるものとする。

- 一 トロコーマ及び（①）
- 二 白癬、疥癬及び膿瘍疹
- 三 （②）
- 四 慢性副鼻腔炎及びアデノイド
- 五 （③）
- 六 寄生虫病（虫卵保有を含む。）

	①	②	③
a	結膜炎	中耳炎	齶歯
b	霰粒腫	外耳炎	口蓋裂
c	結膜炎	外耳炎	齶歯
d	霰粒腫	外耳炎	齶歯
e	霰粒腫	中耳炎	口蓋裂

2 次の文は、「みんなで進める学校での健康つくり～ヘルスプロモーションの考え方を生かして～」(平成21年4月 財団法人 日本学校保健会)において、ヘルスプロモーションの考え方を理解し、子どもに的確な思考・判断を中心とした実践力の育成を目指すことについて述べたものである。文中の (①) ～ (④) に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 エ

WHO(世界保健機関)は、(①) (1946年)で、健康を、「単に病気や虚弱でないというだけでなく、身体的、精神的及び(②)に完全に良好な状態である。」と定義している。

さらに、アルマ・アタ宣言(1978年)において、「国が提供する保健サービスと個人、家庭及び地域住民の積極的な参加によって、世界中の人々が社会的、経済的に生産的な生活ができる生活水準の達成を目指すこと」を宣言している。続いて、ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章(1986年)において、ヘルスプロモーションの理念を提唱し、2005年のバンコク憲章で一部修正されている。

具体的には、「ヘルスプロモーションとは、人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようとするプロセスである。身体的、精神的、(②)に完全に良好な状態に到達するためには、個人や集団が望みを確認・実現し、ニーズを満たし、環境を改善し、環境に対処することができなければならない。それ故、健康は、生きる目的ではなく、毎日の生活の資源である。健康は、身体的な能力であると同時に、(②)・個人的資源であることを強調する積極的な概念なのである。それ故、ヘルスプロモーションは、保健部門だけの責任にとどまらず、健康なライフスタイルをこえて、(③)にもかかわるのである。」

このような健康観(ヘルスプロモーションの理念)を子どもにはぐくみ、(④)や実態に応じて具現化できるような実践力を育成することが必要である。

	①	②	③	④
a	世界人権宣言	組織的	well-being	発育段階
b	世界保健憲章	組織的	well-being	発育段階
c	世界保健憲章	社会的	well-being	発育段階
d	世界人権宣言	社会的	Quality of Life	社会情勢
e	世界保健憲章	組織的	Quality of Life	社会情勢

3 次の文は、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」（平成27年12月 中央教育審議会）において、「チームとしての学校」を実現するための専門性に基づくチーム体制の構築に向けて、養護教諭の現状について述べたものである。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

オ

養護教諭は、児童生徒等の「養護をつかさどる」教員（（①）第37条第12項等）として、児童生徒等の保健及び環境衛生の実態を的確に把握し、心身の健康に問題を持つ児童生徒等の指導に当たるとともに、健康な児童生徒等についても健康の（②）に関する指導を行うこととされている。

また、養護教諭は、児童生徒等の身体的不調の背景に、いじめや虐待などの問題がかかわっていること等のサインにいち早く気付くことのできる立場にあることから、近年、児童生徒等の健康相談においても重要な役割を担っている。特に、養護教諭は、主として保健室において、教諭とは異なる専門性に基づき、心身の健康に問題を持つ児童生徒等に対して指導を行っており、健康面だけでなく（③）でも大きな役割を担っている。

養護教諭は、学校保健活動の中心となる保健室を運営し、専門家や専門機関との連携の（④）的な役割を担っており、例えば、健康診断・健康相談については、学校医や学校歯科医と、学校環境衛生に関しては学校薬剤師との調整も行っているところである。

さらに、心身の健康課題のうち、食に関する指導に係るものについては、栄養教諭や学校栄養職員と連携をとって、解決に取り組んできているところである。

このように、養護教諭は、児童生徒等の健康問題について、関係職員の連携体制の中心を担っている。

	①	②	③	④
a	学校教育法	増進	生徒指導面	コーディネーター
b	学校教育法	増進	学習指導面	コンサルタント
c	教育職員免許法	保持	生徒指導面	コンサルタント
d	教育職員免許法	増進	学習指導面	コーディネーター
e	学校教育法	保持	生徒指導面	コーディネーター

4 「保健室経営計画作成の手引－平成26年度改訂－」(平成27年3月 公益財団法人 日本学校保健会)について、次の(1)・(2)の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、学校経営と保健室経営について述べたものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

力

教育活動を展開するためには、各学校の実態や特徴を踏まえ、各教職員の役割と責任において、学校全体を視野に置いた計画書の作成が必要となる。このため、毎年、学習指導計画、児童(生徒)指導計画、学年・学級経営計画、学校保健計画及び学校安全計画、保健室経営計画など、児童生徒の実態に即した単年度計画を作成し、実施することによって(①)の具現化が図られる。

さらに、評価結果から、学校の現状分析と対策の検討を行うことで、学校組織の活性化、危機管理、人材育成等、学校経営の改善に役立てることができ、それらが知・徳・体のバランスのとれた児童・生徒の育成につながっていく。

保健室は、学校教育法施行規則第1条に「学校には、その学校の目的を実現するために必要な校地、校舎、校具、運動場、図書館又は図書室、保健室その他の設備を設けなければならない。」とあり、設置が義務付けられている。設置に当たっては小学校・中学校・高等学校・特別支援学校施設設備指針に具体的な指針が示されている。さらに、学校保健安全法(②)では「学校には、健康診断、健康相談、保健指導、救急処置その他の保健に関する措置を行うため、保健室を設けるものとする。」と規定されており、保健室の役割を明確に示している。

すなわち、保健室経営は、児童生徒の(③)のために学校全体に関わることであり、教職員の(④)が必要となることから、学校経営の観点に立って保健室経営計画を作成・実施し、児童生徒の心身の(③)に向けて、ねらいや方策、手立て及び実施状況等を外から見えやすく、わかりやすくしていくことが、ひいては教職員、保護者、地域住民及び関係機関等の理解と協力を得られることにつながっていく。

	(1)	(2)	(3)	(4)
a	教育目標	第6条	疾病の予防	連携
b	保健目標	第6条	疾病の予防	連携
c	保健目標	第6条	健康の保持増進	理解
d	教育目標	第7条	健康の保持増進	連携
e	保健目標	第7条	健康の保持増進	理解

(2) 次の表は、養護教諭の専門領域における主な職務内容について示したものである。

表中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 キ

表 養護教諭の専門領域における主な職務内容

(1) 保健管理	①心身の健康管理 <input type="radio"/> 救急処置 <input type="radio"/> 健康診断 <input type="radio"/> （①）の健康問題の把握 <input type="radio"/> 疾病の予防と管理 ②学校環境の管理 <input type="radio"/> 学校環境衛生 <input type="radio"/> 校舎内・校舎外の安全点検
(2) 保健教育	①保健指導 <input type="radio"/> 個別指導（グループ指導を含む） <input type="radio"/> （②）における保健指導への参画 ②保健学習 ③啓発活動
(3) 健康相談	①心身の健康課題への対応 ②児童生徒の支援に当たっての関係者との連携
(4) 保健室経営	①保健室経営計画の作成・実施・評価・改善 ②保健室経営計画の教職員、保護者等への周知 ③保健室の設備備品の管理 ④諸帳簿等保健情報の（③）
(5) 保健組織活動	①職員保健委員会への企画・運営への参画 ②PTA保健委員会活動への参画と連携 ③児童生徒保健委員会の指導 ④学校保健委員会、地域学校保健委員会等の企画・運営への参画 ⑤地域社会（地域の関係機関、大学等）との連携
(6) その他	①学校保健計画策定及び学校安全計画の策定への参画 ②学校保健に関わる（④）

	①	②	③	④
a	児童生徒	特別活動	記録	研究
b	児童生徒	学校行事	管理	情報収集
c	個人及び集団	学校行事	記録	研究
d	個人及び集団	学校行事	記録	情報収集
e	個人及び集団	特別活動	管理	研究

第2問 次の1～11の問い合わせに答えなさい。

1 「児童生徒等の健康診断マニュアル－平成27年度改訂－」(平成27年8月 公益財団法人 日本学校保健会)について、次の(1)・(2)の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、尿の検査の意義及び方法について述べたものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ア

＜検査の意義＞

慢性腎炎は初期には無症状で経過し、放置されると将来腎不全に移行することが知られており、学校検尿で、早期に発見されることが多く見られる。また、生活習慣の変化に伴う若年者(①)の発症も報告され、尿糖検査により早期の糖尿病の発見にもつながる。これらの病気を早期に発見し、適切な治療と管理を受けさせ、将来の疾病の(②)を予防するために検査する。

＜方法＞

尿は、尿中の蛋白、糖等について試験紙により検査する。

- 1 正しい採尿は、就寝前に排尿をさせ、翌朝一番尿を少し排尿してから中間尿を10ml程度採尿する。
- 2 女子で採尿日が生理日及びその前後1～2日であれば、別の日に採尿させて検査する。
- 3 学校では、直射日光を避け、風通しの良い場所に検体を集める。
- 4 蛋白尿は6～12時間後に(③)することがあるので、検査は採尿した当日(採尿後5時間以内)に完了することが望ましい。
 - *前日の夕方からの採尿は、尿中にある細菌が繁殖して、蛋白尿が誤って出たり、血尿が消失したりするので望ましくない。
 - *尿の潜血反応を陰性化するおそれのある(④)を添加したお茶やウーロン茶、(④)の含有量の多いジュースや薬剤は飲まないように指導する。
- 5 1次検尿を行い、陽性と判断された児童生徒等に通知して2次検尿を、早朝一番尿の中間尿を用いて試験紙法、スルホサリチル酸法、煮沸法による検査を行う。
- 6 2次検尿で(+)の陽性者に尿沈渣を行う。

	(1)	(2)	(3)	(4)
a	1型糖尿病	重症化	陽転	ビタミンA
b	2型糖尿病	重症化	陰転	ビタミンC
c	1型糖尿病	慢性化	陽転	鉄分
d	2型糖尿病	慢性化	陰転	ビタミンC
e	1型糖尿病	重症化	陰転	ビタミンA

(2) 次の文は、尿の検査の事後措置について述べたものである。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

イ

一般に、蛋白尿と血尿がともに陽性のとき、特に蛋白尿が強く陽性のときは、血尿のみの場合よりも腎炎が（①）ことが多い。

＜緊急性のある場合の対応＞

1次、2次検尿の結果、尿蛋白が（+++）以上あるいは肉眼的血尿がみられる場合は、腎炎や（②）の可能性が高く、緊急を要することもあるので、検査機関より校長を介して保護者に連絡を取り、急いで医療機関の受診を勧めるシステムをとっている地域もある。

＜尿糖陽性者への対応＞

尿糖が陽性であったら糖尿病と決めてよいかというとそうではない。尿に糖が出やすい体質の子、すなわち腎臓のブドウ糖排泄閾値の（③）腎性糖尿の児童生徒等がいる。その大部分は病気ではない。そのため、尿糖陽性者が糖尿病なのか、腎性糖尿なのかを決める（④）検査が必要である。

	①	②	③	④
a	重い	QT延長症候群	低い	造影
b	重い	ネフローゼ症候群	高い	血糖
c	重い	ネフローゼ症候群	低い	血糖
d	軽い	ネフローゼ症候群	高い	血糖
e	軽い	QT延長症候群	高い	造影

2 次の（1）～（3）の問い合わせに答えなさい。

（1）次の文は、性別について述べたものである（「学校医と養護教諭のための思春期婦人科相談マニュアル」（令和5年4月 公益社団法人 日本産婦人科医会））。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ウ

私たちの性別は、生まれた時に、出産に立ち会った医師や助産師が性器を確認し、その見た目で男性か女性かに割り当てられ、出生証明書に記載されて届け出されます。

性（セクシュアリティ）を決める要素として、主に性器の形状による性の他、性染色体による性、（①）、（②）、性表現があり、それぞれが「男性」「女性」の二元論では語れず、その人によって異なり、また同じ人でもその時々によって異なることがあります。

生まれたときに割り当てられた性別と、（①）や性表現が一致することを「性同一性」といい、それが一致しない場合「性同一性障害」として医学的な疾患とされてきましたが、最近では障害ではないとされ、「性別違和」といわれるようになっていきます。

戸籍上の性別変更は成人にならないと現時点ではできませんが、体が変化することを抑える（③）治療は（④）から受けることが可能です。（③）療法やカウンセリングなどの適切な医療サポートのほか、学校でもトイレや更衣室、制服等に対する配慮を行うことにより、苦痛を軽減することが望まれます。

	①	②	③	④
a	性自認	性的指向	減感作	青年期
b	性的指向	性自認	ホルモン	青年期
c	性自認	性的指向	ホルモン	学童期
d	性自認	性的指向	ホルモン	思春期
e	性的指向	性自認	減感作	思春期

- (2) 次の文は、子宮頸がんについて述べたものである（「学校医と養護教諭のための思春期婦人科相談マニュアル」（令和5年4月 公益社団法人 日本産婦人科医会））。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。
- 工

子宮頸がんの原因は性交かそれに類する性的接触で感染するヒトパピローマウイルス（HPV）といわれています。性交経験者の（①）は少なくとも1度はHPVに感染したことがあると言われています。HPVは現在150以上の型が同定されていますが、そのうち40ほどの型が性器に感染します。長期の持続感染を経て前がん病変となり、自然に治癒しない場合子宮頸がんに進行するといわれています。HPV感染した人のうち子宮頸がんを発症するのは（②）と言われており、日本では年間約11,000人が子宮頸がんと診断され、約2,900人が子宮頸がんで亡くなっています。（③）の女性において最も発症率が高いのは子宮頸がんです。

性交をしたすべての人が子宮頸がんになるわけではありませんが、一度でも性交の経験があるすべての女性は子宮頸がんのリスクがあります。HPVワクチン接種によるHPV感染予防と（④）のための子宮頸がん検診がとても重要です。

	①	②	③	④
a	60%	1%未満	20代	早期発見
b	30%	10%未満	20代	早期発見
c	60%	10%未満	40代	重症化予防
d	30%	1%未満	40代	重症化予防
e	60%	10%未満	20代	重症化予防

(3) 次の文は、月経困難症及び思春期早発症について一部抜粋して述べたものである（「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引－令和3年度改訂－」（令和4年3月 公益財団法人 日本学校保健会））。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 才

○月経困難症

月経に随伴して起こる病的状態で、月経時あるいは月経直前より始まる強い下腹部痛や腰痛を主症状として、下腹部痛、腰痛、腹部膨満感、嘔気、頭痛、疲労・脱力感、食欲不振、イライラ、下痢および憂うつの順に多くみられる。子宮内膜症等に起因する（①）月経困難症と特定の疾患のない（②）月経困難症に分類され、思春期では（②）月経困難症が多い。

○思春期早発症

思春期早発症には、特発性中枢性といって正常な思春期が異常に早期に発来する場合と、腫瘍などから（③）が異常に分泌される場合とがある。多くは特発性中枢性であり、（④）によくみられる。

	①	②	③	④
a	機能性	器質性	成長ホルモン	女子
b	器質性	機能性	性ホルモン	男子
c	器質性	機能性	成長ホルモン	男子
d	機能性	器質性	性ホルモン	男子
e	器質性	機能性	性ホルモン	女子

3 次の（1）・（2）の問い合わせに答えなさい。

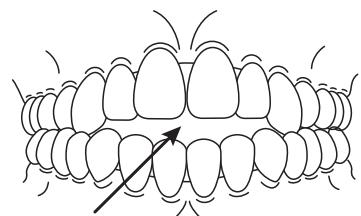
（1）次の文は、歯周病について述べたものである（「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引－令和3年度改訂－」（令和4年3月 公益財団法人 日本学校保健会））。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 力

歯周病とは、歯の周りの組織である歯肉、セメント質、歯槽骨及び歯根膜（歯根と歯槽骨を結んでいる組織）に病変が起こる疾病的総称で、歯肉の炎症である歯肉炎から始まる。歯周病は、有病率の増加と発病時期が（①）している。初期の歯肉炎（GO）では歯と歯の間、歯の縁の歯肉が軽度に腫れて赤くなり、色が赤みを帯びて、ぶよぶよした感じになる。原因とされる（②）の沈着が認められ、ひどい場合には出血が認められることもある。歯と歯ぐきの境目の（③）の除去を目的にしたブラッシングや規則的な食生活など、（④）指導が学校での保健指導として行われることが必要である。近年、（④）因子として糖尿病、肥満など全身的な疾病との関係が指摘されている。

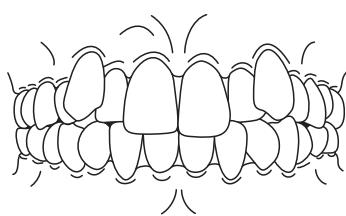
	①	②	③	④
a	低年齢化	色素	歯科	宿主
b	高齢化	歯垢	生活習慣	宿主
c	低年齢化	歯垢	生活習慣	宿主
d	高齢化	色素	歯科	環境
e	低年齢化	歯垢	生活習慣	環境

(2) 次の図は、歯列・咬合の不正の症状を示したものである（「生きる力」を育む学校での歯・口の健康づくり 令和元年度改訂」令和2年2月 公益財団法人 日本学校保健会）。図A・Bについて名称と症状の組み合わせを、下のa～eから一つ選んでください。 キ

A



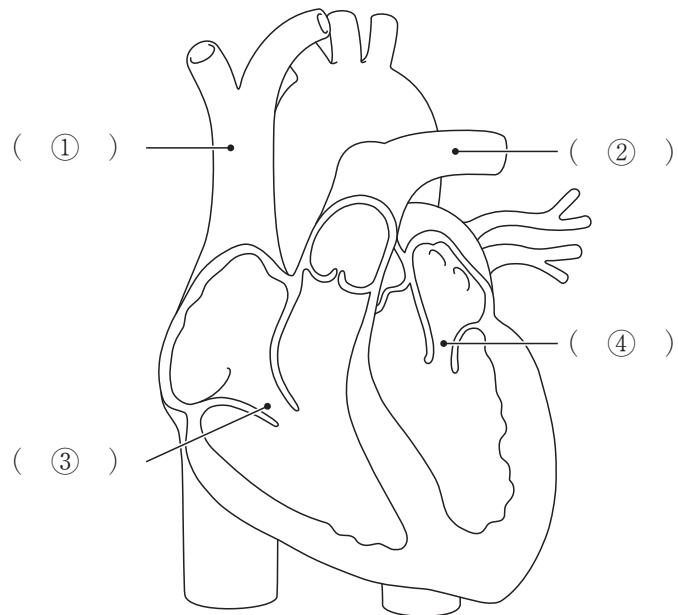
B



	名称	症状
①	叢生	隣接面のむし歯や歯肉炎の危険因子になりやすい。
②	開咬	前歯で噛み切ることができない。また、嚥下時に舌の突出を招きやすい。
③	正中離開	審美的な問題が生じやすく、発音にも影響しやすい。

	A	B
a	③	①
b	②	①
c	①	②
d	①	③
e	②	③

4 次の図は、心臓の断面を示したものである。図中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ク



	①	②	③	④
a	上大静脈	左肺静脈	三尖弁	大動脈弁
b	上行大動脈	左肺静脈	三尖弁	肺動脈弁
c	上行大動脈	左肺動脈	大動脈弁	肺動脈弁
d	上大静脈	左肺動脈	三尖弁	僧帽弁
e	上行大動脈	左肺動脈	大動脈弁	僧帽弁

5 次の文は、「学校生活管理指導表指導区分」の一部抜粋である（「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」（平成27年8月 公益財団法人 日本学校保健会））。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ケ

- (1) A ; (①) または在宅医療が必要なもので、登校はできない。
(2) B ; 登校はできるが（②）は不可。
(3) C ; 同年齢の平均的児童生徒にとっての（③）にのみ参加可。
(4) D ; 同年齢の平均的児童生徒にとっての中等度の運動にまで参加可。
(5) E ; 同年齢の平均的児童生徒にとっての（④）にも参加可。

	①	②	③	④
a	入院	運動	軽い運動	強い運動
b	通院	活動	軽い運動	強い運動
c	通院	運動	軽い運動	長時間の運動
d	入院	活動	短時間の運動	長時間の運動
e	入院	運動	短時間の運動	長時間の運動

6 次の文は、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン 令和元年度改訂」（令和2年3月 公益財団法人 日本学校保健会）において、小児の「強いぜん息発作のサイン」及び「「強いぜん息発作のサイン」がある場合の対応」について述べたものである。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 コ

○小児の「強いぜん息発作のサイン」

- ・（①）の色が白っぽい、もしくは青～紫色
- ・息を吸うときに、（②）がベコベコへこむ
- ・苦しくて話せない
- ・歩けない
- ・ボーッとしている（意識がはっきりしない）
- ・息を吸うときに、小鼻が開く
- ・脈がとても速い
- ・息を（③）よりも明らかに時間がかかる
- ・横になれない、眠れない
- ・過度に興奮する、暴れる

○「強いぜん息発作のサイン」がある場合の対応

大発作と呼ばれ、入院加療を緊急に要するレベルです。すみやかに救急要請を行います。姿勢は（④）として、急性増悪（発作）対応薬があれば、救急搬送までの時間に投与します。

	①	②	③	④
a	唇や爪	腹	吸うほうが吐く	仰臥位
b	舌や頬	腹	吐くほうが吸う	坐位
c	唇や爪	胸	吸うほうが吐く	仰臥位
d	舌や頬	腹	吐くほうが吸う	仰臥位
e	唇や爪	胸	吐くほうが吸う	坐位

7 「学校の危機管理マニュアル作成の手引」(平成30年2月 文部科学省)について、次の(1)・(2)の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、「応急手当を実施する際の留意点」について述べたものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 サ

突然倒れた場合などは「119番」に通報し救急車が到着するまでの間、その場で心肺蘇生等の一次救命処置が求められます。事故等の態様によっては救命処置が一刻を争うことを理解し、行動しなければなりません。

- 被害児童生徒等の生命に関わる緊急事案については、(①)よりも救命処置を優先させ迅速に対応する。
- 教職員は事故等の状況や被害児童生徒等の様子に動搖せず、また(②)の不安を軽減するように対応する。
- 応急手当を優先しつつも、事故等の発生状況や事故等発生後の対応及びその結果について、適宜(③)を残すことを心掛け、対応が一段落した時点で(③)を整理する。

心肺停止が起こった直後には「(④)」(しゃくりあげるような呼吸が途切れ途切れに起こること)と呼ばれる呼吸が見られる場合もありますが、これは正常な呼吸ではありません。

救命処置においては、意識や呼吸の有無が「分からない」場合は、呼吸と思えた状況が(④)である可能性にも留意して、意識や呼吸がない場合と同様の対応とし、速やかに心肺蘇生とAED装着を実施する必要があります。

	(1)	(2)	(3)	(4)
a	消防への連絡	他の児童生徒等	伝言	チェーンストークス呼吸
b	消防への連絡	加害児童生徒等	メモ	死戦期呼吸
c	管理職への報告	他の児童生徒等	メモ	死戦期呼吸
d	消防への連絡	他の児童生徒等	伝言	死戦期呼吸
e	管理職への報告	加害児童生徒等	メモ	チェーンストークス呼吸

(2) 次の文は、頭頸部外傷事故発生後の対応について述べたものである。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 シ

決してすぐには立たせずに、（①）の有無等をチェックします。（①）が継続する場合は、直ちに救急車を要請します。

また、脳振盪の一項目である意識消失（気を失う）から回復した場合も、速やかに（②）し医師の指示を仰ぐことが重要です。頭部打撲の場合、その後、（③）くらいは急変の可能性があるため、帰宅後の家庭での観察も必要となります。頸髄・頸椎の損傷が疑われる場合は、平らな床に速やかに寝かせた後、（④）、運動能力（まひ、筋力低下）、感覚異常（しびれ、異常感覚）、呼吸の状態の4つを確認することが必要であり、動かさないで速やかに救急車を要請するのが原則です。

	①	②	③	④
a	意識障害	休養	1時間	意識の状態
b	運動障害	受診	3時間	脈拍
c	意識障害	休養	3時間	脈拍
d	意識障害	受診	6時間	意識の状態
e	運動障害	受診	6時間	脈拍

8 「小学校等における医療的ケア実施支援資料～医療的ケア児を安心・安全に受け入れるために～」(令和3年6月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)について、次の(1)・(2)の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、医療的ケアの概要と実施者について述べたものである。文中の(①)～(③)に該当する語句の組み合わせを、下のa～dから一つ選びなさい。 ス

○医師及び看護師などの免許を有さない者による医行為は、医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条その他の関係法規によって禁止されている。ここにいう医行為とは、医師の医学的判断及び技術をもって行わなければ、人体に危害を及ぼし、又は、危害を及ぼすおそれのある行為を(①)する意思をもって行うこととされている。

○一般的には、医療的ケアとは、病院などの医療機関以外の場所(学校や自宅など)で(②)して行われる、喀痰吸引や(③)、気管切開部の衛生管理、導尿、インスリン注射などの医行為を指し、病気治療のための入院や通院で行われる医行為は含まれないものとされている。

	①	②	③
a	日常的に継続	反復継続	経管栄養
b	反復継続	日常的に継続	経管栄養
c	反復継続	日常的に継続	食事介助
d	日常的に継続	反復継続	食事介助

(2) 次の文は、「小学校等における受け入れ体制の構築」において、教職員の役割について述べたものである。文中の（①）～（③）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 セ

小学校等において看護師等が医療的ケアを行うに当たって、教職員は、医療的ケアを小学校等において行う教育的意義や必要な（①）などについて理解するとともに、学級担任をはじめ教職員により行われる日常的な子供の（②）の把握を通じて、看護師等と必要な情報共有を行い、（③）にはあらかじめ定められた役割分担に基づき対応することが、特に重要である。

	①	②	③
a	衛生環境	健康状態	緊急時
b	学習環境	学習状況	緊急時
c	衛生環境	健康状態	平常時
d	学習環境	健康状態	平常時
e	衛生環境	学習状況	緊急時

9 「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」(令和3年6月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)について、次の(1)～(3)の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、吃音の状態や特性、話し言葉の状態を述べたものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ソ

吃音とは、自分で話したい内容が明確にあるのにもかかわらず、また構音器官のまひ等がないにもかかわらず、話そうとするときに、同じ音の繰り返しや、引き伸ばし、声が出ないなど、いわゆる流暢さに欠ける話し方をする状態を指す。

現在のところ、原因は不明である。吃音のある子供は、話すときに、身体全体を(①)させたり、身体の一部を動かすなどの随伴症状を呈したり、自分の話し方を恥じ、それを隠そうとしたり、回避しようとして他者と話そうとしなくなり、結果的にひきこもってしまったりするなど、吃音が(②)や社会性の発達に大きな影響を与えることがある。

○話し言葉の状態

ア 語頭音の繰り返し（連発）

話すときの最初の音や、文のはじめの音を「ほ、ほ、ほほ、ほくは…」というように何回も繰り返す話し方で、吃音の(③)の段階に多く、幼児期によく見られる話し方である。

イ 語頭音の引き延ばし（伸発）

話すときの最初の音や、文のはじめの音を「ほおーーくは…」というように引き伸ばす話し方である。

ウ 語頭音の阻止（難発）

話のはじめだけでなく、途中でも生じる場合もあり、声や語音が非常に出にくくい状態である。比較的(④)吃音に多いといわれている。

	①	②	③	④
a	脱力	情緒的発達	初期	回復した段階の
b	硬直	精神的発達	中期	回復した段階の
c	脱力	精神的発達	初期	進行（進展）した
d	脱力	情緒的発達	中期	進行（進展）した
e	硬直	情緒的発達	初期	進行（進展）した

(2) 次の文は、吃音の特性を述べたものである。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 タ

ア 吃音の状態に（①）が見られること

中核症状の状態は、一人一人異なることはもちろんであるが、個々の子供の状態は、日によったり、場の状況や相手、話の内容により（①）するものである。

イ 人や場面に対する恐怖や回避を生じやすいこと

吃音のある子供の中には、自分が苦手であるとか、避けて通りたいと思っている特定の場面（音読や、電話をかける場面など）を意識的に又は無意識的に避けようとすることがある。これらは、それまでの本人自身の経験の中で、特に（②）ことの積み重ねの結果であろうと思われる。

ウ 障害症状が見られること

発語に伴って生じる（③）ことを障害症状と呼ぶ。

エ 社会性の発達や（④）に対する影響が見られること

吃音は、子供の社会性の発達や（④）にも重大な影響を与えることになりやすいものである。

	①	②	③	④
a	増幅	失敗した	常同行動	自己肯定感
b	変動	失敗した	常同行動	学力
c	増幅	緊張した	身体運動	学力
d	変動	失敗した	身体運動	自己肯定感
e	増幅	緊張した	常同行動	自己肯定感

(3) 次の文は、情緒障害について述べたものである。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 チ

情緒障害とは、周囲の環境から受けるストレスによって生じたストレス反応として状況に合わない心身の状態が持続し、それらを自分の（①）ではコントロールできないことが継続している状態をいう。

○早期からの教育的対応の重要性

情緒障害の状態の現れ方は様々であるが、どのような場合においても、子供一人一人に生じているストレス反応を（②）することが大切である。そして、学校生活や社会生活に適応できない状態が生じる前から、子供が感じている困難さを（③）した上で早期からの適切な対応がなされることが重要である。

情緒障害のある子供については、低年齢の段階から（④）とも連携しつつ、学校で（⑤）過ごせる環境を整えるなど、適切な教育的対応が必要である。

	①	②	③	④
a	意思	分析	家庭	自由に
b	行動	理解	医療機関	安心して
c	意思	理解	医療機関	安心して
d	行動	分析	家庭	安心して
e	意思	理解	医療機関	自由に

10 「精神疾患に関する指導参考資料」（令和3年3月 公益財団法人 日本学校保健会）について、次の（1）・（2）の問い合わせに答えなさい。

（1）次の文は、若者の精神保健・精神疾患の実際について述べたもの一部抜粋である。下線部①～④の内容について、正しいものには○、誤りのあるものには×をついた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。

ツ

多くの精神疾患は、①妄想（幻聴等）、抑うつ気分、不眠、などで始まることが多いが、これらは思春期であれ、大人であれ、「よくありがちな」症状とも言える。しかし、②そのまま対処せずにいると、次第に個々の疾患に特徴的な症状へと発展する恐れもあるため、こうした症状を、「よくあること」として見過ごさず、改善すべきこととして、③生活リズムや生活環境の改善等に配慮するというように、適切に対応することが望まれる。

一方、これらの症状は誰にでも生じるものでもあり、全てが病的なものとは限らない。健康な悩みや不安、憂鬱な気分と、病的な精神症状を区別することは容易ではなく、思春期のありがちな心の動きなのか、場面や状況に即した心の動きなのか、イベントに対して年齢にふさわしい反応の大きさや内容であるのかなど、仮に専門家が見ても難しい場合もある。大切なことは、日頃から、その人の性格や特性といったその人らしさをよく知っておき、④その人らしさが際立ち過ぎた場合に注意する、ということである。生徒であれば自身や友人に対して、教師であれば生徒に対して、日ごろのその人らしさとはどういう状態なのかに注目しておきたい。

	①	②	③	④
a	×	○	○	×
b	○	○	○	○
c	×	×	×	○
d	○	○	×	×
e	○	×	×	×

(2) 次の文は、相談と治療について述べたものの一部抜粋である。下線部①～④の説明について、正しいものには○、誤りのあるものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。 テ

精神疾患をめぐる全体的な理解としては、(1)精神疾患に罹患することは誰にも起
こりえるという認識、(2)①精神疾患の発症には、睡眠などの行動様式が影響するこ
と、(3)精神疾患や心の不調を疑ったら、早めに②誰かに相談すること、を生徒も周
囲の大人も理解し行動できることが目標である。

学齢期においては、精神保健領域も教育現場における対応がなされることが多いが、
親や教師よりも、友人に相談したりインターネットから情報を得たりしがちである。
③周囲の大人が知らないうちに時間が過ぎていく前に、保健体育教諭、HR担任や養
護教諭やスクールカウンセラーに相談を持ち掛けやすい環境づくりが重要である。

思春期の心性に配慮した診療を得意とする精神科医の所在は、保健所、保健セン
ターなどに情報がある。日ごろから、これら社会資源と教育機関の情報ネットワーク
を築いておくことが求められる。精神科における治療は薬物療法ばかりではなく、
④軽症の段階では環境調整やストレスマネジメントなども行われ、その段階での対応
が大切なのである。

	①	②	③	④
a	○	×	○	×
b	×	○	○	○
c	○	×	○	○
d	×	○	×	×
e	×	×	×	○

11 「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」(平成21年3月 文部科学省)について、次の(1)・(2)の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の表は、自殺の心理について示したものである。表中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ト

自殺はある日突然、何の前触れもなく起こるというよりも、長い時間かかって徐々に危険な心理状態に陥っていくのが一般的です。自殺にまで追いつめられる子どもの心理とはどのようなものなのでしょうか。次のような共通点を挙げることができます。

(1)	(①)	「誰も自分のことを助けてくれるはずがない」「居場所がない」「皆に迷惑をかけるだけだ」としか思えない心理に陥っています。現実には多くの救いの手が差し伸べられているにもかかわらず、そのような考えにとらわれてしまうと、頑なに自分の殻に閉じこもってしまいます。
(2)	(②)	「私なんかいい方がいい」「生きていっても仕方がない」といった考えがぬぐいされなくなります。その典型的な例が、幼い頃から虐待を受けてきた子どもたちです。愛される存在としての自分を認められた経験がないため、生きている意味など何もないという感覚にとらわれてしまいます。
(3)	強い怒り	自分の置かれているつらい状況をうまく受け入れることができず、やり場のない気持ちを他者への怒りとして表す場合も少なくありません。何らかのきっかけで、その怒りが自分自身に向けられたとき、自殺の危険は高まります。
(4)	苦しみが永遠に続くという(③)	自分が今抱えている苦しみはどんなに努力しても解決せず、永遠に続くという(③)にとらわれて絶望的な感情に陥ります。
(5)	(④)	自殺以外の解決方法が全く思い浮かばなくなる心理状態です。

	①	②	③	④
a	無価値感	心理的視野狭窄	思い込み	ひどい孤立感
b	ひどい孤立感	無価値感	心理的視野狭窄	思い込み
c	思い込み	ひどい孤立感	無価値感	心理的視野狭窄
d	ひどい孤立感	無価値感	思い込み	心理的視野狭窄
e	心理的視野狭窄	思い込み	ひどい孤立感	無価値感

(2) 次の表は、自殺の危険因子について示したものである。表中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ナ

自殺未遂	薬を少し余分に服用したり手首自傷（リストカット）をしたりと、死に直結しない自傷行為の場合であっても、その後、適切なケアを受けられないと、（①）には自殺によって生命を失う危険が高まる。
心の病	子どもでも、ひどく落ちこんだり、好きだったものにも興味がわからなくなったり、眠れない・食欲がわかないなどの症状が長期間続く場合には、（②）の可能性がある。
安心感のもてない家庭環境	虐待はもちろん、夫婦仲が悪く緊張感のある家庭。成長過程で受けるはずの愛情を十分に受けることができなくなる。
独特の性格傾向	極端な完全癖、（③）な考え方、衝動的など
（④）	離別、死別、失恋、病気、けが、急激な学力低下、予想外の失敗など
孤立感	仲間からのいじめや無視など
安全や健康を守れない傾向	事故や怪我を繰り返すようになる。

	①	②	③	④
a	短期的	うつ病	多様的	喪失体験
b	長期的	統合失調症	多様的	衝撃体験
c	長期的	うつ病	二者択一的	喪失体験
d	短期的	統合失調症	二者択一的	衝撃体験
e	長期的	統合失調症	多様的	喪失体験

第3問 次の1～4の問い合わせに答えなさい。

1 「学校環境衛生管理マニュアル 平成30年度改訂版」（平成31年3月 文部科学省）について、次の（1）・（2）の問い合わせに答えなさい。

（1） 次の文は、相対湿度の基準等について示したものである。①～⑤の解説について、正しいものには○、誤りのあるものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。 ア

- ① 基準は、30%以上、50%以下であることが望ましい。
- ② 検査方法は、0.5度目盛の乾湿球湿度計を用いて測定する。
- ③ 検査回数は、毎学年2回定期に検査を行うものとする。
- ④ 相対湿度が、30%未満の場合には、適切な措置を講ずるようにする。
- ⑤ 加湿器にはできるだけ蒸留水を使用し、定期的に清掃するなど、メンテナンスを適切に行う。

	①	②	③	④	⑤
a	○	○	×	×	×
b	○	○	×	○	○
c	×	×	○	×	○
d	×	×	×	○	×
e	×	○	○	○	×

(2) 次の表は、まぶしさの基準等について示したものである。①～⑧の解説が誤っているものの組み合わせを、a～e から一つ選びなさい。 イ

基準	① 児童生徒等から見て、黒板の外側30° 以内の範囲に輝きの強い光源（昼光の場合は窓）がないこと。
	② 見え方を妨害するような光沢が、壁面や天井面ないこと。
	③ 見え方を妨害するような電灯や明るい窓等が、テレビ及びコンピュータ等の画面に映じていないこと。
検査方法	④ 見え方を妨害する光源、光沢の有無を調べる。
事後措置	⑤ まぶしさを起こす光源は、これを覆うか、又は目に入らないような措置を講ずること。
	⑥ 直射日光が入る窓は、カーテン等を使用するなど適切な方法によってこれを防ぐこと。
	⑦ まぶしさを起こす光沢は、その面をつや消しにするか、又は光沢の原因となる光源や窓を覆ってまぶしさを防止すること。
	⑧ 電子黒板やタブレット端末等を利用する場合、窓からの映り込みの防止対策として、通常のカーテンだけでなく、厚手のカーテンや遮光カーテンのように太陽光を通しづらいものの使用を考慮すること。

a	b	c	d	e
⑤⑧	①②	③⑦	④⑧	②③

2 「学校において予防すべき感染症の解説—令和5年度改訂—」(令和6年3月 公益財団法人 日本学校保健会)について、次の(1)・(2)の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、空気感染（飛沫核感染）について述べたものである。文中の(①)～(③)に該当する語句の組み合わせを、下のa～dから一つ選びなさい。 ウ

空気中の塵や飛沫核（5 μm 以下の微粒子；空気中を(①)以上浮遊）を介する感染である。すなわち、感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口や鼻から飛散した小さな飛沫が(②)し、その芯となっている病原体（飛沫核）が、感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し、同じ空間にいる人もそれを吸い込んで感染する。

空気感染する感染症には、結核、麻しん、水痘等がある。麻しんや水痘は感染力が強く、(③)を受けることが感染症の発症予防や感染拡大を防ぐための重要な手段となる。

	①	②	③
a	1 m	乾燥	予防接種
b	10m	落下	健康診断
c	1 m	落下	予防接種
d	10m	乾燥	健康診断

(2) 次の文は、接触感染について述べたもの一部抜粋である。文中の（①）～（③）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

工

感染している人との接触や汚染された物との接触による感染である。感染している人に触れること（握手、だっこ、キス等）で伝播がおこる（①）と、汚染された物（ドアノブ、手すり、遊具等）を介して伝播がおこる（②）に分けられる。なお、傷口や医療行為（針刺し等）を介した血液媒介感染も（①）の一種であり、傷の処置や医療行為を行う者は特に注意が必要である。

接触感染する感染症には、咽頭結膜熱、単純ヘルペスウイルス感染症、流行性角結膜炎、伝染性軟属腫（水いぼ）、伝染性膿痂疹（とびひ：黄色ブドウ球菌感染症あるいは（③）感染症の一つ）、アタマジラミ症、疥癬等がある。

	①	②	③
a	直接接触感染	間接接触感染	アデノウイルス
b	間接接触感染	直接接触感染	溶連菌
c	直接接触感染	間接接触感染	溶連菌
d	直接接触感染	間接接触感染	RSウイルス
e	間接接触感染	直接接触感染	RSウイルス

3 「学校における感染症対策実践事例集」（令和4年3月 公益財団法人 日本学校保健会）について、次の（1）・（2）の問い合わせに答えなさい。

（1）次の文は、正しい手洗いの方法について述べたものである。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

オ

手洗いは（①）程度かけて、水と石けんで丁寧に洗います。特に、（②），爪の間、親指の付け根などは洗い残す頻度が高いため、注意して洗うようにします。また、手を拭くタオルやハンカチ等は個人持ちとして、共用はしないようにします。

石けんは、固形石けんの場合、前に使った人の汚れや菌が表面に付着することがあり、衛生面が懸念されることから、（③）が望ましいです。

手指用の消毒液は、（④）での手洗いができない際に、補助的に用いられるもので、基本的には（④）と石けんでの手洗いを指導します。特に（②）の手洗いをしっかり行うように指導します。

また、石けんやアルコールを含んだ手指消毒剤に過敏に反応したり、手荒れの心配があったりするような場合は、（④）でしっかり洗うなど指導します。

	①	②	③	④
a	30秒	指先	液体石けん	浄水
b	30秒	手のひら	薬用石けん	流水
c	15秒	手のひら	液体石けん	浄水
d	15秒	指先	薬用石けん	温水
e	30秒	指先	液体石けん	流水

(2) 次の文は、咳エチケットの取組について述べたものである。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 力

くしゃみや咳が出るときは、飛沫にウイルスを含んでいるかもしれません。

次のような咳エチケットを心がけましょう。

- ・マスクを着用します。
- ・ティッシュなどで（①）と口を覆います。
- ・とっさの時は（②）や上着の内側で覆います。
- ・周囲の人からなるべく離れます。

マスクは、自分の顔に合ったサイズを着用し、（①）の形に合わせて隙間をふさぐようにします。

マスクの効果は、マスクの（③）や人と人の距離等によって違いが生まれます。

マスクをはずす場合、マスクの（④）を触らないようにし、ひもの部分を持ちはずすようにします。

	①	②	③	④
a	鼻	手	色彩	裏面
b	頬	袖	素材	裏面
c	鼻	袖	素材	裏面
d	頬	手	色彩	表面
e	鼻	袖	素材	表面

4 次の文は、「学校における薬品管理マニュアル 令和4年度改訂 追補版」（令和6年8月 公益財団法人 日本学校保健会）の中の「ノロウイルス感染症発生時の吐物・下痢便の清掃の方法」についての一部抜粋である。①～⑤の説明について、正しいものには○、誤りのあるものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。 キ

- ① 近くにいる人を別室などに移動させ、部屋を密閉した上で、吐物・下痢便は、ゴム手袋、マスク、ビニールエプロンをして、できればゴーグル、靴カバーを着用し、ペーパータオルや使い捨ての雑巾で拭き取ります。
- ② 吐物は広範囲に飛散するため、中心部から半径1mの範囲を内側から外側に向かって、周囲に拡げないようにして静かに拭き取ります。
- ③ 拭き取ったものはビニール袋に二重に入れて密封して破棄します。
- ④ 便や吐物の付着した箇所は、0.1% (1,000ppm) 次亜塩素酸ナトリウム消毒液等で消毒します。その際、消毒液をスプレーで吹きかけると、逆に病原体が舞い上がり、感染の機会を増やしてしまうために、噴霧はしないようにします。
- ⑤ 次亜塩素酸ナトリウムは、木や紙などの有機物に触れると消毒効果が下がるため、ペーパータオルを使ったり木の床を消毒したりする場合には、1% (10,000ppm) 以上の濃度の次亜塩素酸ナトリウム消毒液を使用します。

	①	②	③	④	⑤
a	○	×	×	○	×
b	×	○	○	×	○
c	○	○	○	×	×
d	×	×	○	○	×
e	×	○	×	○	○

第4問 次の1・2の問い合わせに答えなさい。

1 次の文は、「学校の危機管理マニュアル作成の手引」（平成30年2月 文部科学省）の中の、教職員研修について述べたもの一部抜粋である。文中の（①）～（③）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ア

教職員は、危険等から児童生徒等の（①）や身体の安全を守るため、状況に応じた的確な判断や行動が求められます。学校における組織体制や安全教育の重要性と（②）を十分認識し、安全に関する自らの意識や対応能力、安全教育に関する指導力を一層高めることが求められます。そのためには、学校や地域の実態に即した（③）な研修を行う必要があります。

	①	②	③
a	財産	緊急性	実践的
b	生命	緊急性	実践的
c	財産	必要性	総合的
d	生命	緊急性	総合的
e	生命	必要性	実践的

2 次の文は、「学校給食における食物アレルギー対応指針」(平成27年3月 文部科学省)の中の一部抜粋である。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 イ

○食物アレルギーを有する児童生徒にも給食を提供する

食物アレルギーを有する児童生徒であっても、他の児童生徒と同じように給食時間や学校生活を過ごせるようにします。

学校給食の提供にあたっては、（①）に努めることが最優先です。そのためには、食物アレルギー児童生徒の視点に立って対応するとともに、食物アレルギーやアナフィラキシーについて正しく理解し、（②）や緊急対応などを行うことが求められます。

○組織で対応し、学校全体で取り組む

学校給食の食物アレルギー対応は、個人の努力や良心に任せられるものではなく、組織で対応するものです。校長は食物アレルギー対応委員会を組織し、自ら委員長となります。委員会では、（③）に基づき、校内における食物アレルギーの様々な調整、連携、管理、決定、周知を行います。

なお、食物アレルギーは既往症のある児童生徒のみが発症するとは限らず、学校給食で初めて食した物に反応する事例も少なからずあります。また、転校等で新たに食物アレルギーを有する児童生徒が転入してくることもあります。このため、現在食物アレルギーを有する児童生徒がいない学校にあっても（④）を行う必要があります。

	①	②	③	④
a	安全・安心の確保	リスク管理	ガイドライン	体制整備
b	安定した食材確保	情報管理	ガイドライン	環境調整
c	安全・安心の確保	情報管理	マニュアル	体制整備
d	安定した食材確保	リスク管理	ガイドライン	環境調整
e	安全・安心の確保	リスク管理	マニュアル	体制整備

第5問 次の1・2の問い合わせに答えなさい。

1 次の文は、「保健教育の指導と評価－令和4年度版－」（令和5年3月 公益財団法人日本学校保健会）において、「学校における保健教育の意義」についての一部抜粋である。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ア

「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」の一つとして「健康・安全・食に関する力」についての資質・能力が次のとおり示されており、これらは学校における保健教育において子供たちに身に付けさせたい資質・能力とおおむね一致している。

- ア. 「様々な健康課題、自然災害や事件・事故等の危険性、健康・安全で安心な社会づくりの意義を理解し、健康で安全な生活や健全な食生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること（知識・技能）」
- イ. 「自らの健康や食、安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、健康で安全な生活や健全な食生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、それを表す力を身に付けていること（思考力・判断力・表現力等）」
- ウ. 「健康や食、安全に関する様々な課題に关心を持ち、（①）に、自他の健康で安全な生活や健全な食生活を実現しようとしたり、健康・安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること（学びに向かう力・人間性等）」

広義には、保健教育は、子供たちが学習し、生活する場である（②）において、健康で安全な生活を送ることができるようになるとともに、（③）健康で安全な生活や健全な食生活を送るために必要な資質・能力を育み、健康・安全で安心な社会づくりに（④）ようにすることが求められている。

	①	②	③	④
a	主体的	学校	地域社会において	貢献できる
b	積極的	家庭	生涯にわたって	参画できる
c	主体的	学校	生涯にわたって	貢献できる
d	積極的	学校	地域社会において	貢献できる
e	主体的	家庭	地域社会において	参画できる

2 次の（1）・（2）の問い合わせに答えなさい。

（1）次の文は、「薬物乱用防止教室マニュアル 令和5年度改訂」（令和6年3月 公益財団法人 日本学校保健会）において、「薬物乱用防止の基本的な考え方」についての一部抜粋である。文中の（①）～（④）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 イ

○一次予防の視点

薬物乱用防止では、一次予防が最も本質的な予防策である。一次予防は（①）を使用するきっかけそのものを除いたり、各個人がきっかけとなる誘因を避けたり、あるいは拒絶したりすることができるようになることを目標とするものである。

○学校の特性と薬物乱用防止

10代は心身の発育・発達過程にあるため薬物の影響が成人より深刻なたちで現れる。この年齢期は、薬物乱用のきっかけが起こりやすい時期であるとともに、学校教育が関わるいわゆる学齢期に重なる。

一次予防では健康教育と社会環境の改善がその具体的な手段となる。学校は6歳から18歳のほとんど全ての児童生徒を対象とし、その発達段階に対応して（②）を行うことができる場である。

○薬物乱用防止教育の内容の充実強化

学校における薬物乱用防止教育は、小学校の体育科、中学校及び高等学校の保健体育科、特別活動をはじめ、学校の（③）全体を通じて指導が行われることが大切である。

また、児童生徒が、薬物乱用の危険性・有害性のみならず、薬物乱用は、好奇心、投げやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、断りにくい人間関係、宣伝・広告や入手しやすさなどの（④）などによって助長されること、また、それらに適切に対処する必要があることを理解するとともに、正しく判断し行動できるようになるため、指導方法の工夫が行われることが重要である。

	①	②	③	④
a	依存性薬物	集団指導	組織活動	社会環境
b	依存性薬物	集団指導	教育活動	情報環境
c	違法薬物	系統的な指導	教育活動	情報環境
d	依存性薬物	系統的な指導	教育活動	社会環境
e	違法薬物	系統的な指導	組織活動	情報環境

(2) 次の文は、「学校における薬品管理マニュアル 令和4年度改訂 追補版」(令和6年8月 公益財団法人 日本学校保健会)において、「薬物乱用防止教育で取り扱う薬物等」について述べているものからの抜粋である。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ウ

○大麻

大麻は10代に使い始めると、成人に比べて、薬物依存となるリスクが約4倍から7倍高くなることが報告されている。また、大麻使用は知覚の変化や学習能力の低下、(①)、精神障害、薬物依存などの有害性が知られている。

中学生を対象とした全国調査において、大麻を乱用している中学生が一定の割合で存在することが明らかにされている。また、大麻の乱用経験を持つ中学生は、乱用経験のない中学生に比べて、親しく遊べる友人や相談ができる友人がいない場合が多く、(②)が楽しくない子供たちが多いという結果が示されている。

○医薬品

多くの市販薬の対象年齢は(③)以上となっているため、中学生では自ら購入し、使用することが増えてくる。また、置き薬として家庭に常備されていることが多く、身近な薬物もある。

市販薬の多くは複数の成分が含まれていたり、同じ症状に使用される薬であっても含まれる成分が異なったりする。このため、個々の薬で急性影響や依存性などの影響度は異なるが、総じて(④)により心身の健康に悪影響があり、場合によっては死に至る。近年は、市販薬による薬物依存症患者が増加しており、依存性に特に注意が必要である。

	①	②	③	④
a	運動失調	学校生活	15歳	過量服薬
b	運動失調	家庭生活	13歳	連日の服薬
c	体力低下	学校生活	13歳	過量服薬
d	運動失調	学校生活	15歳	常習化
e	体力低下	家庭生活	15歳	常習化

